

MAINTENANCE

橋梁点検・補修



橋梁点検・補修の目的と概要

道路網に代表される社会資本は、社会・経済成長期に整備されたことから、施設の高齢化が著しく、今後、多くの道路施設が整備後 50 年を経過することとなります。

橋梁点検は、道路維持管理業務として管理する橋梁の現状を把握し、耐荷力・耐久性に影響する損傷や第三者に被害を及ぼす可能性のある損傷を早期に発見することにより、常に橋梁を良好な状態に保全し、安全且つ円滑な交通を確保するとともに、点検結果等で得られた情報の蓄積により、合理的且つ効率的な維持管理を行うことを目的に実施するものです。

弊社は、道路管理者が設定した点検要領に基づき、「日常点検」、「定期点検」、「特定・異常時点検」等を実施するとともに、維持管理コストの縮減を目的とした長寿命化計画の立案、適切な補修工法を提案します。

点検

従来の手法として、橋梁点検車や高所作業車による近接目視や打診による点検の実施に加え、必要に応じて鋼材の塗装塗膜調査や各種コンクリート試験等の詳細調査も行っています。

橋梁点検車などが使用できない場合、吊足場の設置も行っています。

新技術の活用として、長大橋梁では全方向回避センサーを有する小型ドローン技術の導入による作業の安全性向上や効率化をすすめています。

橋梁長寿命化修繕計画

損傷状況や環境状況を指標とした優先度評価を行い、最適な対策工法と適切な対策時期のシミュレーションにより LCC の縮減を図ります。また、目標供用年数や予算に応じた、定期点検や補修・補強の短期・長期計画や予算の平準化も立案します。

補修設計

現況調査を実施し、橋梁の損傷劣化の原因や進行状況を把握し、効率的・効果的な機能回復に向けた工法検討、工事費用の算出、施工計画等の立案を行います。新工法としては、従来のメッシュ工法やシート工法よりも作業日数が短く経済性も良く、可視性のある透明シート工法の実績も増えてきています。

有資格者

- ◇技術士（建設部門/鋼構造及びコンクリート）1名
- ◇RCCM（鋼構造及びコンクリート）4名
- ◇道路橋点検士 3名

